

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年11月3日～2018年11月9日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円でほぼ横ばいになりました。また、カナダ5年国債利回りもほぼ横ばいになりました。

先週は、米国株が持ち直したことや米国中間選挙が予想通りの結果になったことなどによる投資家のリスク選好姿勢の高まりがカナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力となりました。しかし、原油価格の下落やキーストーンパイプライン建設に関して米地裁が作業の差し止め命令を出したことが下落圧力となり、週を通してみるとカナダ・ドル円、カナダ金利はほぼ横ばいとなりました。

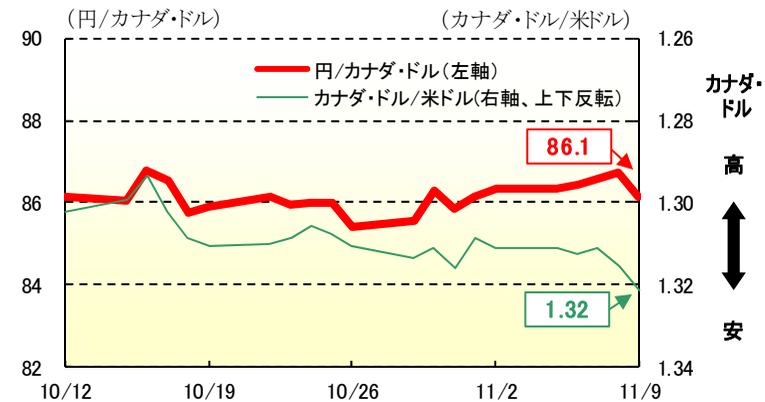
経済指標では住宅着工件数の発表があり、予想を上回る結果となったものの市場への影響は限定的となりました。

【2】今週の見通し

今週は、カナダに関しては、特段重要な経済指標の発表は予定されていません。市場の注目は、米国で発表されるCPI(消費者物価指数)や小売売上高などに集まりそうです。米国経済の堅調さが確認される結果となれば利上げ期待の高まりにより米国金利の上昇圧力が高まり、それにカナダの金利も連れるとみえています。

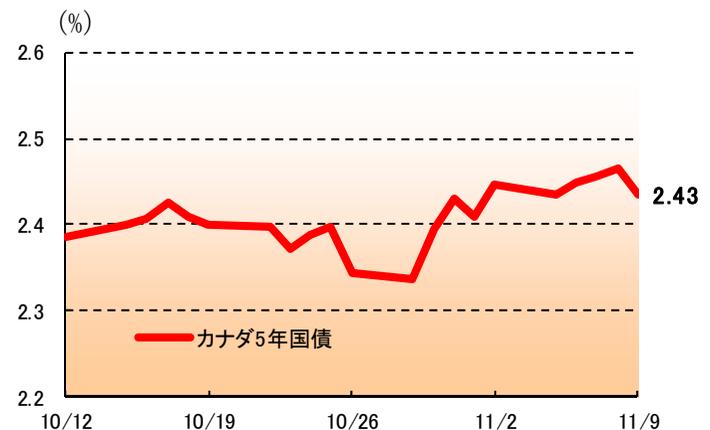
ただし、足元では株式市場は乱高下しており、投資家のセンチメントが落ち着いていないことは、カナダ・ドル、カナダ金利の上昇圧力を抑える要因となりそうです。また、原油価格は10月初めから下落基調となっており、下げ止まる気配がないため、カナダの金利、通貨の上値を抑える要因になることが予想されます。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年10月12日～2018年11月9日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【カナダ 金利推移】 (2018年10月12日～2018年11月9日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>